



服の寄贈に関する
パートナーシップレポート
2019

ユニクロ / ジーユーと UNHCR “服のチカラ”

難民・避難民を助けるために



「背景」

ファーストリテイリングは、ユニクロ/ジーユーのお客様に、不要となった衣服の寄贈に参加してもらいリサイクル活動を実施し、2006年以來、UNHCRと共に世界中の難民・避難民や、支援を必要としている人々にその服を届けるなど、UNHCRの難民支援活動を積極的に応援しています。今までにこの取り組みを通じて300万点以上ものリサイクル衣料がUNHCRを通じて難民・避難民に配布されています。“服のチカラ”は、ユニクロ店舗での難民雇用、難民の自立支援、資金援助、コーズマーケティング、ユニクロスタッフのUNHCRプログラムへの派遣、ユニクロ/ジーユーの店舗や地域の学校を含むアドボカシーや教育活動などの様々な難民支援を通し、これまでのユニクロ/ジーユーとUNHCRとのパートナーシップの拡大や成功を示す明確な言葉となっています。

ファーストリテイリング（ユニクロ/ジーユー）とUNHCRのグローバル・パートナーシップは2011年に締結され、以来何年にも渡り更新と拡大を続けています。直近ではユニクロ/ジーユーの難民や避難民に対する支援を継続していく3年間の合意が2017年に結ばれています。

服の寄贈を行う
“全商品
リサイクル
活動”

ユニクロ
店舗での
難民雇用

難民への
研修や
自立支援

資金援助

アドボカシー
とコーズ
マーケティング

ユニクロ
従業員の
UNHCR
事務所への
派遣

※表紙：コンゴ民主共和国のモゴロ村で実施されたUNHCRの衣料配布の後、新しい洋服を持っている中央アフリカ共和国からの難民の少女。
© UNHCR/Hugh Kinsella Cunningham

※ P.2：UNHCRがコンゴ民主共和国で実施した服の配布の準備として並べられた衣服 © UNHCR/Hugh Kinsella Cunningham



「服のチカラ」

ユニクロ/ジーユーと UNHCR のパートナーシップの根底には、リサイクル衣料を強制的に国を追われた人々やその他の理由で脆弱な状況下の人々に届けることにより、世界をよりよい方向へ変えていくということがあります。

ユニクロは 2007 年に初めて UNHCR に服を寄贈し、それらはタイ、ネパール、ウガンダ、タンザニアなどの国々に届けられました。また、ユニクロはその年に 5,070 万米ドルの資金援助を行い、UNHCR はユニクロ代表団を招き、その支援の様子をフィールドで一緒に喜びました。それ以来、UNHCR とユニクロのグローバル・パートナーシップは成長し続け、2012 年以降、その支援は急激に増え続けています。2011 年から 2019 年の間、ファーストリテイリングは緊急支援・自立支援を含めた 1200 万米ドル以上の資金を難民・避難民のために提供しました。コミュニケーション・キャンペーンやコースマーケティング、またユニクロ/ジーユー従業員が日本の学校で 4 万人以上の生徒たちに難民のことについて話し、学生自身が地域で衣服を回収する「届けよう、服のチカラプロジェクト」を通し、UNHCR への衣料支援はさらに強化されています。さらに、これまでのパートナーシップにおいて、UNHCR とユニクロ/ジーユーは、韓国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、スペイン、英国などで地域連携を深め、そのことにより、それぞれの地域で難民問題の認知の拡大に貢献し、世界をよりよく変えようと一緒に活動しています。

～難民に対する尊厳と快適さの提供～

2007 年以來、UNHCR のフィールドで配布された 90% 以上の衣服は、ユニクロ/ジーユーとそのお客様から提供されています。これらの衣服は食料、住居、薬などの生活必需品すら手に入れることが困難な人々に尊厳と快適さをもたらす手助けとなっています。また、衣服をもらった多くの難民・避難民は、単純にいつもと違う新しいものを着ることのできる喜びを享受するだけでなく、ユニクロ/ジーユーの皆さんが世界の別の場所に助けたいと思う人がいてくれることを忘れずにいてくれることに対し、感謝の気持ちでいっぱいになります。UNHCR のフィールドとユニクロ/ジーユーの間の調整は UNHCR 本部によって行われますが、UNHCR のフィールドでは難民や避難民のニーズをくみ取った衣料の要請や、実際の配布活動が行われています。

2019 年には 4,445,676 点の衣服がユニクロ/ジーユーから UNHCR を通して難民・避難民に寄贈され、これまでのパートナーシップを通じて寄贈された総量は 30,739,074 点に達しました。それらの服は 2019 年に服を受け取った 13 か国を含む、全部で 23 の国で配布されました。このパートナーシップから恩恵を受けている全ての人を代表して、私たちはファーストリテイリング（ユニクロ/ジーユー）に心からの感謝を表明致します。

ユニクロ/ジーユーの服の寄贈は毎年 UNHCR のフィールド事務所からのリクエストに基づいており、近年は特にアフリカからの需要が高くなっています。このレポートの後半は 2019 年にユニクロ/ジーユーから服の寄贈を受けたいいくつかの国々のお話を紹介していきます。



「チャド、ウガンダ、コンゴ民主共和国 2019年のユニクロ/ジーユーの衣料配布」

UNHCRの民間連携部門は、2019年にユニクロ/ジーユーの衣料支援を受けている国々のUNHCR事務所と密に連携し、配布の様子や、服を受け取った人のお話、写真などを集め、いただいた服が彼らにもたらす影響を記録してきました。以下ユニクロ/ジーユーの寛大な貢献が、強制移動せざるをえなかった男性、女性、そして子供たちにどのような影響をもたらしたかを紹介します。

ハスワンゲさんのストーリー ～スーダンからチャドへ～

ハスワンゲ・アブドゥラ・ダウドさんは6人の子供たちと共にスーダンから逃れてきました。ハスワンゲさんは村から非難する時、寒い夜から赤ん坊を守る毛布を持っていくことだけしかできませんでした。しかし、ハスワンゲさんを出ていかせようとした男性はそれを拒否し、ハスワンゲさんを殴りました。ハスワンゲさんは傷を負いながらも隣国のチャドに逃れてきました。ハスワンゲさんは27日間アドレの国境で過ごしました。特に夜間は大変冷え込みました。ハスワンゲさんたちには自分たちを守る住居すらありませんでした。その後ハスワンゲさんは子供たちと共に、2月の初旬にコウチャグイネモウラの新しい難民キャンプに移動させられました。

UNHCRスタッフがお話を聞いた際、ハスワンゲさんは新しいキャンプに来て23日が経ったところでした。キャンプはハスワンゲさんにとって安全で、UNHCRとそのパートナー機関から支援を受けることができる場所でした。ハスワンゲさんは家族用の住居と食料、台所用品などの基本的な救援物資を受け取りました。

ユニクロ/ジーユーの衣料配布は2月25日から28日までチャドのコウチャグイネモウラキャンプにてUNHCRとそのパートナー機関によって実施されました。服を受け取ったのは、2月の初旬からスーダンの国境よりコウチャグイネモウラに移動してきた全ての家族です。全ての家族が1人当たり5着の衣服を受け取りました。衣服は夏服と冬服が混ざっており、またスポーツ用のものや靴までも含まれていました。合計で1,016家族、4,049の人が衣服を受け取ることができました。ハスワンゲさんの家族も赤ちゃん用の服や寒さから子供たちを守るための防寒着などユニクロ/ジーユーから寄贈された衣服を受け取りました。ハスワンゲさんは自身や子供たちのための靴や毛布ももらえればと言っていました。



※ 2019年、チャドでのユニクロ/ジーユーの衣料配布の様子 © UNHCR



※ 2019年、チャドでのユニクロ/ジーユーの衣料配布の様子 © UNHCR

デニスさんのストーリー ～ウガンダ～

デニス・カバンザさんは既婚の40歳の女性で、12人の家族と共に2014年、ウガンダからやって来ました。コンゴ民主共和国のルチュルにいた時、マイマイ反乱軍がその地域を襲い、多くの人々が残酷に殺されました。そのため、デニスさんとその家族はウガンダへ避難せざるを得なくなったのです。デニスさんは移動の途中で、夫が大腿骨の上部を何度も撃たれたために、なんとか今はサポートがあれば歩けるもののまだ治療中なのだとしてUNHCRスタッフに話してくれました。さらにデニスさんは私達は大家族なのに、自分しか家族の収入を支える人がいないことを伝えてくれました。大家族みんなに服を買ってあげることは難しいので、デニスさんはウガンダのカヤカで受け取った衣服に助けられたのだと感謝の気持ちを伝えてくれました。このように、服を寄贈することで人々の負担を軽くすることもできるのです。デニスさんは自分用に普段の畑や庭仕事の他に、仕事後に家でも着用できるような普段着用のズボンなど4着の衣服を受け取りました。デニスさんはこの支援のおかげで洋服を洗い変えることができるようになったので、本当に喜んでます。



※ 2019年、ウガンダのカヤカにて、デニス・カバンザさん © UNHCR



※ 2019年、ウガンダで、ユニクロ/ジーユーの衣料支援を受けるカヤカの女性 © UNHCR

女性の人口が大多数を占めるカヤカからやってくる難民が急激に増えたため、住民をサポートするために緊急衣料支援の必要性が高まりました。2019年、UNHCRはそんな女性たちを支援するために、ユニクロ/ジーユーから女性用の衣服を20梱受け取りました。それら合計2,728点の衣服は、ブヤバコラ、イタンバビニガ、スウェスウェ地域の、総計で1,364名の女性に届けられました。

また、ウガンダのナキバレでは、新規入国者、庇護希望者、難民の方々に受け入れセンターで配布するため

に、UNHCRは17梱の女性、男性、男児、女児用、3梱の幼児用の防寒着を受け取りました。

さらに、全部で1,523（女性968名、男性555名）名のブルンジ、コンゴ民主共和国、ルワンダ、南スーダンからの難民、避難民がカバザナ受け入れセンターで防寒着の支援を受けました。3年間に渡る避難生活の中で初めて防寒着の支援を受けられたことは大変画期的なことであり、難民、避難民の人々はユニクロ/ジーユーとUNHCRの取組や支援に感謝をしています。

コンゴでの衣料配布

2019年コンゴ民主共和国、バラカでのユニクロ/ジーユーの衣料配布にて、避難民の家族達はユニクロ/ジーユーから100,950点もの服を寄贈されました。



※コンゴ民主共和国、バラカでのユニクロ/ジーユーの衣料配布を受け取っている子供たち © UNHCR/Hugh Kinsella Cunningham



※ UNHCR の衣料配布で、配布前に並べられる衣服 © UNHCR/Hugh Kinsella Cunningham



※中央アフリカ共和国からの難民の女性たちがコンゴ民主共和国のモゴロ村で行われた UNHCR の衣料配布に参加した後、新しい衣服を見ている様子 © UNHCR/Hugh Kinsella Cunningham

最後に、ユニクロ/ジーユーとその全てのお客様へ心からの感謝を申し上げます。
2019年、皆さまのご支援のおかげで命を救う服のチカラプロジェクトは何千人もの難民、避難民、その他の弱い立場の人たちの力になりました！



Private Sector Partnerships Service

Partnerships Development Unit

UN City, Marmorvej 51

2100 Copenhagen Ø

Denmark

Tel: +81-3-3499-2032

E-mail: sakurai@unhcr.org

www.unhcr.org

© United Nations High Commissioner for Refugees

Design:

Fanni Uusitalo/Partnership Support Unit

Private Sector Partnerships Service

